■■■　しんさくら子ども学習教室　■■■

　毎週土曜日になると、ふたば国際プラザにミャンマー難民の子どもたちが学びにやって来ます。
就学前１名、小学1年生2名、2年生1名、3年生1名、4年生1名の計6名が午前10時から午後3時まで大人たちが日本語を勉強している間同じように過ごします。
昨年9月に来日し、東京で半年間過ごしてから神戸にやって来ました。3月に出会った頃はまだたどたどしかった言葉が、今では「○○やでぇ」とすっかり関西風。保護者よりずっとスムーズに会話できます。
しかし、これまで学校生活を経験していません。普通に来日する子どもと違い学校で今学んでいることを通訳してもらったり、分からないところを補習すれば良い話ではありません。２～４年生は１～3年間の空白があるのです。
「ふえるといくつ？」「あわせていくつ？」「ぜんぶでなんぼん？」「みんなでなんにん？」これは1年生の1学期、算数の教科書にでてくるたしざんに関する言葉です。
同じ意味なのに日本語とはなんと複雑で子どもたちにとって分かりにくい言葉でしょうか。
しかし、数の基本的な概念を理解させるために多様なアプローチで問いかけることは大切です。多様な考え方を身に着けることで場面を想像し自分で考える力が育ちます。計算の公式を覚えて正解するだけでは将来頭打ちになるのです。
ただし、それを理解するための「ことば」や「生活経験」に課題がある子どもたちにとって、いくつもの見えないハードルがあります。
そこで、学校の宿題や理解できていない単元を補習したりする学習時間と、生活場面に必要な言葉を体験も交えて楽しく学べる日本語時間の2部制にして個々の課題を探りながら支援をしています。
当初、時間割も決めておらず、持ち物も忘れ物が多かったり、席をすぐ離れてしまったり。スタッフも子どもたちに翻弄されかけましたが、「学習のきまり」をつくり、午後には「おそとで遊ぼう」の時間を設け思いっきり体を開放できる時間を確保。今では2時間ずつの長丁場を途中で「いや、しない。」と言いかけてもスタッフがうまく乗せて「最後までがんばる」と自分から言い出すように。
同じ学年であっても一人一人の伸びる力と時期は違います。しかし、言葉や厳しい環境によって阻まれた部分を少しでも改善し、その子が本来持つ能力を十分に発揮できるよう、スタッフ一同子どもたちの心に寄り添いながら支援しています。
又、同じフロア―で大人も日本語を学んでいるので、ミャンマー難民の方たちが皆おだやかで家族への愛情にあふれ、子どもたちの将来を案じていることがよくわかります。私もこの「しんさくら学習教室」で過ごすことが自分自身の耕しの時間として感じられ、この場に立ち会えることのめぐり合わせに感謝しています。（山本 則子）

■■■　ハナ介護サービス　■■■

2018年3月から、KFCで勤務するようになり、早くも1年半少し経ちました。前任者の退職により業務の引継ぎを経て、居宅介護支援事業専任ケアマネに着任いたしましたが、ケアマネ業務のみならず、業務遂行にあたり如何に、多文化共生というこれまでの社会人経験の中には、なかった

新しい概念の理解を現実的に、直面して考えさせられる現状と向い合い、日々の業務と並行して遂行し続ける毎日です。
さて、利用者さんの現状は、在日コリアン26名・在日ベトナム人11名・華僑2名に日本人9名と、以前より、若干日本人高齢者の増加は見られるものの、事業対象としては80%以上が、外国人高齢者ですので、これは他の居宅とは大きな相違であると思います。これに対し、法人としても、母語ができるスタッフを配置する等、文化的背景に考慮した対応をしていますが、約1年利用者さんの居宅を訪問させていただいた限りでは、これまでの自己が考えていた、居住歴・職歴・教育・交流関係、差別体験・健康、医療、収入・レクレーション等、そして、行政の福祉サービス(介護保険制度)についての認識等に、従来通り、という基本概念・常識的な考え方はつくづく通用しないものであるということ、また自身の知識幅がいかに狭かったかということを、痛感させられる毎日です。
この中でも、つかみえたことは、同じ地域・時代に生きて行くという事の難しさ、共生・協調・同調・共感等言葉では言い表せない、何かしら相通じるに、同じ人として向かうところ、たとえ不自由な部分や経済的不利等々があっても、健康で元気に毎日心に潤いを感じて生活していけるよう、いかに居宅として、福祉行政サービスやはたまた地域社会資源と組み合わせ、これをフォローしていくことが実行できるか。
これにプラス、如何に利用者さんの持つ固有の文化的背景や個人の考え方等に、マッチしたコミュニケーション又は手法にて理解し得るように伝えられるか。そしてこれらを実現していき、日々少しずつ前に進めて行けるか、ここら辺の手法を暗中模索していかなければならないということです。これに尽きると思います。
全般的には、居宅の利用者さんの数も、一時的には、1割程度減少はいたしましたが、紹介等により徐々に元に戻っている状況です。
どうぞこれからも引き続き、KFCの高齢者支援・居宅介護支援事業にご理解とご支援の程、宜しくお願い申し上げます。
（介護支援専門員　酒井 政行）

■■■ＫＦＣ日本語プロジェクト■■■
◆新ボランティア船曳由起さんにインタビュー♡
「10月から始めています！」

木曜日の夜クラスに支援者で来られている船曳由起さんからお話を聞きました。10月3日から参加されていらっしゃいます。

――ボランティアを始めるきっかけは何ですか？
船曳さん「意思疎通がスムーズにいかないのは、ストレスになりますよね。
日本人同士の会話でもそういうことが起こります。外国から来られた方はもっとストレスフルな気持ちになっているのだと思います。
私が勤めている会社は、30人ほどですが、ベトナムの人たち7人と一緒に働いています。彼女たちは、とても上手に日本語を話しています。でも『まだまだ十分に話せない』と言っていました。
そんなふうに思っている人は、たくさんいるのではないでしょうか。
日本語が話せるようになりたいと思っている人を応援したいと思っています。

日本に来たばかりで、不安な日々を送っている人。少しでも、お役に立てればと思っています。それがきっかけです。」

――すばらしいですね。確かに在住の外国の方は増えています。
船曳さん「私の家の近所にも、ヨーロッパや中国からのご家族がいらっしゃいます。」

――そうですか。今年の統計からも外国籍の方が約280万人ということですから、50人に1人が外国籍の方という計算です。

――さて、そろそろ1ヶ月がたちますが、木曜日の夜のクラスはいかがでしょうか？
船曳さん「通い始めたばかりで、新しい学習者の方達と同様、少し緊張しましたが、お茶会を開いてくれたり、休憩おやつタイムがあったりと、リラックスタイムがありすぐになじむことができました。
学習者の方たちも積極的な人、シャイな人、みんな元気で笑顔の素敵な人たちです。日本語がわからない人に日本語で何かを伝えるのは、とても難しいことですが、それを、考えることがとても楽しいです。」

――そうですか。とても難しそうには見えませんでした。いつもテキパキされていて、明るく楽しそうです。最後にこれからの抱負があれば一言、お願いします。
船曳さん「まだまだこれからです。
失敗もあると思いますが、笑顔を忘れずに皆さんと一緒に勉強していきたいと思います。」

――どうもありがとうございました。
　笑顔が素敵な船曳さん、仕事を終えられてからふたば国際プラザに駆けつけてくれています。これからもどうぞよろしくお願いします！　（聞き手：奥 優伽子）

■■■ ハナの会■■■

◆秋の遠足

　10月23日～25日の3日間、初日を除きあいにくの雨でしたが、皆さん雨にも負けず、昼食は中華バイキング料理の神戸餐館で、皆様目をキラキラ輝かせながら美味しい食事をお腹いっぱい食べました。
特に人気のゴマ団子は直ぐに無くなり、いつ出来上がるのかと一点を見つめているお顔は本当に可愛らしく微笑ましい光景でした。
大きくなったお腹をヘコませる為、23日はメリケンパーク・24日は市役所の展望台・25日はメリケンパークへ繰り出して行きました。大きな旅客船が港に着いており、「乗りたいわ」「今度は船でディナーね」と楽しい会話で盛り上がりました。
帰りの車の中では「私たちは今楽しんでいますが、台風被害に遭った人のことを思えば心苦しいです。」と話が出ていました。満たされたお腹と美しい神戸の景色に感謝しながら、今回、台風で災害に遭われた方々の一日も早い復興を願います。
（中野 一恵）

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆KFC新長田帰国者交流会 明舞地域交流会を行いました！

10月20日に毎年恒例の明舞地域交流会を行い、NPOひまわり会のご協力のもと、明舞団地の住民と帰国者との交流会を行いました。広島の帰国者に関するドキュメンタリーの上映会を行い、その後二胡やフルスの演奏を帰国者有志の方々に作って頂いた中国のお菓子「开口笑」を頂きながら楽しみました。以下、帰国者とボランティアの方の感想です。

「帰国邦人を理解してほしいです」
残留孤児：澤　政道
神戸定住外国人支援センター（KFC）のお陰で、先日10月20日明舞センターでドキュメンタリービデオを見させていただき、有難う御座います！
　そのビデオを見てから、いろいろなことを思い出しました。終戦後、中国に残された残留邦人達が中国にいた時、日本に帰って来てから今に至るまでにあったことが心に浮かんで来ました。中国にいる時に（小日本鬼子）などいろいろ悪い言葉などが沢山有ったけど、良いことは多すぎて特別優しい養父養母の御恩は一生忘れることが出来ません。祖国の日本に帰ってからも良いことも悪いこともいろいろあったじゃないですか。「あんたは言葉が分からないから日本人じゃない中国に帰れ！支那に帰れ」などもあった。言葉の違い、生活習慣も違い、社会ルールも違う所があるじゃありませんか。だから 帰国者と日本人との互いの理解は大事です。常に支援団体の支援のもとで地域との交流をしなければなりません。

「明舞地域交流会」感想
日本語ボランティア：日野　勉
　今までは火曜日の午前中、KFCで来日して間もない外国人に生活日本語を教えていましたが、火曜日のクラスが無くなったため、同日午後「ふたば国際プラザ」で帰国者に日本語を教えるクラスに参加することになりました。2つのグループは似ているようで、対象者は全く違っています。外国人学習者は若年層で女性が多く、日本での生活時間も短いですが、帰国者は高齢者で男女ほぼ同じ、日本での生活も長いため全く違ったグループです。
10月20日、明舞センターで「帰国者交流会」が開かれ、約50人の帰国者と支援団体の「NPO法人ひまわり」が参加し、二胡の演奏やシャンソンなどを聴き、広場踊りや小学唱歌3曲をみんなで歌い、楽しいひと時を過ごしました。
これに先立ち、最初にドキュメンタリー『私は日本人です　鷹一さんと二人のおばあちゃんの場合』が上映されました。広島の公営住宅に住む帰国者の現状を取材したものです。中国で育ち、文化や生活習慣が違うことによる問題を同じ日本人としてどのように解決していくか。もし日本語が上手く喋れて意思疎通が出来れば解決も早く、悩む人達も少なくこれ程の問題とはならないが、上手く日本語が喋れない、理解できないという基本の所でお互いの壁があると思いました。帰国者は、日本人である自分たちの住む地域を外国人が住む地域と誤解される悲しさ、苦しみ、せつなさを嘆いておられました。少なくとも言葉が通じれば苦悩も少ないのではと思いますが、高齢者が新しく言葉を覚えるのは並大抵なことでは無いと思います。この様な環境下で、将来に亘り日本で生活を送る不安を「常に冷たい風が心の中に吹いている」と表現した一言は、安心して日本で生活を送りたいという心の叫びに聞こえました。一方、帰国者同士が集まる「春節祭」のシーンでは歌や踊りにと、昔過ごした中国のようにお正月を皆で喜ぶ笑顔や姿を見て、故郷の空気に覆われている感じで、この時だけはほっとしました。
　帰国者が最後に「もし、75年前に戦争がなければ、この様な苦労も無かったのに」
と云われた言葉が、帰国者の人生全てを表現していた、重い言葉でした。戦争は、全ての物を破壊する。2度とやってはいけない事です

■■■　グループホーム・小規模多機能型居宅介護ハナ■■■

◆秋の遠足

　秋の気配がただよう中、気温も下がり肌寒さを感じています。遠足の予定日も迫るのに台風やら大雨やらと日程の変更も考えていましたが当日は台風一過となり朝から晴天！！
下見はしたものの元々の悪路に台風での影響が心配でしたが、いざ出発。今回は姫路大学の学生も参加してくれて楽しみでした。くねくね道をのんびりと景色を楽しみながら1時間で到着、体調が悪い利用者様もスタッフもおらず一安心でした。下車して新鮮な空気を吸う間もなく、出ました。Y・F様のトイレTIME（笑）。到着後一段落したところでお弁当を広げ、眼下に神戸を一望しながら食べるお弁当は絶品でした。皆さまの笑顔を見るだけで来て良かったなと感慨深く思いました。
　昼食を食べてひとしきり各々が写真を撮ったり景色を眺めたりした後で、本日のメインイベン

ト！学生さんたちが利用者様と一緒に紙芝居を進めながら新聞紙での折り紙をするという企画。ワイワイがやがや「間違えた」「どうやるの」「チベ　カンダ（家、帰る）（笑）」賑やかな声が駆け巡るなか無事終了。自由時間にしてお土産屋をまわり帰宅の途に就く。思いに耽けながらくねくね道をゆっくり下山、皆さまお疲れ様でした。
ご同行いただいた姫路大学の学生さん先生方もご同行ありがとうございました。
（小規模多機能型居宅介護ハナ　野津 隆司）

■■■ ふたば国際プラザ ■■■

◆多文化ひろめ隊養成講座･児童館派遣説明会を行いました！

ふたば国際プラザでは国際理解教育事業として、留学生や外国にルーツを持つ人々が「多文化ひろめ隊」という講師となり、市内の児童館で自分の国の言葉や歌、ゲームなどを紹介して頂く派遣事業を行っています。11月に派遣を予定する第一回の事業開催にあたり、その説明会と、文化紹介の手法に関する養成講座を10月19日に開催しました。

この派遣事業は公立の児童館を管轄する神戸市社会福祉協議会地域児童課、民間の児童館を管轄する神戸市子ども家庭局そして当プラザの委託元である神戸国際協力交流センター(ＫＩＣ)のご協力のもとに行うもので、市内18児童館へ講師2名ずつ、計36名の募集を行いました。講師については近隣大学の留学生を中心に、地域に住む外国にルーツを持つ方々を幅広く募集させて頂きました。多くの方に関心を持って頂き、市内の児童館からは22館、講師は12か国42名と定数を超えるご応募を頂きました。応募にご協力頂きました関係各位に御礼申し上げます。

19日の説明会では、応募頂いた講師と児童館の方々にご来館頂き、派遣に関する注意事項の説明を全体に向けて行ったほか、具体的な文化紹介の内容や個別の事情について、講師と児童館の方で小グループに分かれて打ち合わせを行って頂きました。また、講師の方々がより伝わりやすい文化紹介の手法を学び、実践して頂けるよう、養成講座を同日開催致しました。養成講座の前半はＫＦＣ日本語コーディネーターの奥によるレクチャー、後半は文化紹介のお手本としてデイサービス管理者でもある呼和德力根がモンゴルの文化紹介をしました。限られた時間でしたが、講師の方々は皆さん熱心に耳を傾けたり質問したりしておられました。

この事業はふたば国際プラザとして今回が初回で、鋭意運営しているつもりですがその運営にはまだ要領を得ていない側面もあります。講師の募集時期と大学の夏休みが重なったせいで応募者は当初集まりませんでしたし、講師の希望日程と児童館の希望日程をマッチングするのも想像以上に困難でした。中にはせっかくご応募頂いたにもかかわらず、児童館の希望日程とどうしても合わず、派遣を見送らせて頂いた方もいらっしゃいました。

来年度からは年二回開催予定の本事業ですが、今後は募集のタイミングや仕方など今回の反省点を活かし、皆さんが希望通りに参加できるよう実施したいと思います。まずは11月の第一回派遣の本番がこれからなので、児童館の子どもたちにとっても講師の方々にとっても良い経験となるよう、サポートを継続します。　　(大石 貴之)

■■■ 今後の予定■■■

◆今後の予定
■ふたば国際プラザ
　ヒューマンシネマ上映会
11月22日(金) 18：00-20：15
　　「雲南の花嫁　花腰新娘」
12月20日(金) 18：00-20：15
「八日目　Le huitième jour」

まちの文化祭展示出展 11月24(日)
　防災訓練11月30日(土)10：00～

■縁会
12月13日(金)　内モンゴル料理

アスタくにづか5番館地下飲食街スペース

■就学前の子どものプレスクール事業
2020年1月11日～3月28日(土)10：30-12：00
2月15日、3月14日を除く毎週土曜日

■KFC新長田帰国者交流会
11月24日(日)11：15～まちの文化祭舞台出演